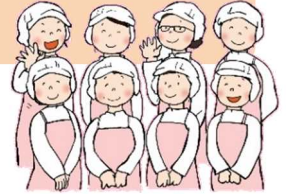


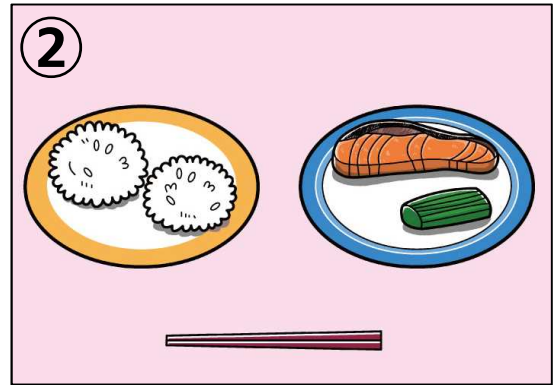
みなさんが毎日いただいている学校給食は、昔から今のようにいろいろな材料を使ったものではありませんでした。学校給食は明治22年(1889年)山形県鶴岡町で始まりました。戦争で食べる物がなくなり、一時中止されていましたが、世界中から支援物資が届けられ、昭和21年に再開されました。再開を記念して1月24日から30日までを「全国学校給食週間」とし、全国で学校給食について考える活動などが行われています。



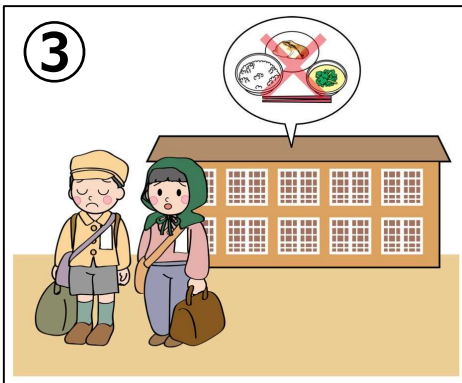
給食の歴史を知ろう



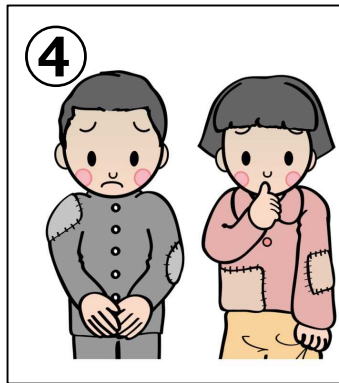
① 明治22年、山形県鶴岡町の忠愛小学校で家が貧しくて昼の弁当を持ってこれない子供たちに昼ごはんを準備したのが給食の始まりです。



② 内容は「おにぎり」「つけもの」「焼き魚」といった簡単なものですが、貧しい子供たちも学校で勉強できるようになりました。その後、日本中に広まっていきました。



③ 昭和16年頃から戦争が激しくなってきたために、食べる物がなくなり、給食を続けることができなくなりました。



④ 昭和20年に戦争は終わりました。しかし満足に食べることができず、子供たちはいつもお腹をすかせていました。当時の6年生の身長は、現在の4年生くらいの大きさしかなかったそうです。



⑤ 昭和21年、世界の国々から日本の子供たちを助けようと小麦粉や脱脂粉乳、缶詰などの物資が送られてきました。世界中から届けられた物資を使って、再び学校給食ができるようになりました。

